

会議報告書（議事概要）

| | |
|--------------|--|
| 会議の名称 | 「健康都市おおぶ」推進会議（令和6年度 第2回） |
| 日 時 | 令和6年 10月8日（火）13時30分～14時50分 |
| 場 所 | 大府市役所5階 全員協議会室 |
| 出席者 （敬称略） | 荒井 秀典（国立長寿医療研究センター） 伊藤 浩明（あいち小児保健医療総合センター） 竹中 徳哉（大府市医師団） 大野 心み（大府市歯科医師会） 榊原 明美（大府市薬剤師会） 竹内 涼子（公募委員） 今井 勇治（愛知県知多保健所） 平川 仁尚（あいち健康の森健康科学総合センター） 林 史子（大府市小中学校） 岩井 幸子（大府市スポーツ推進委員会） 肥後 恵美子（人間環境大学） 藤田 静子（至学館大学） 事務局（健康未来政策課・健康増進課）10名 |
| 欠席者 （敬称略） | 齋藤 雅茂（日本福祉大学） |

内 容

事務局： お忙しいところお集まりいただきお礼申し上げます。本日は、半数以上の委員が出席しているため、「健康都市おおぶ」推進会議条例第6条第2項の規定に基づき、令和6年度第2回「健康都市おおぶ」推進会議を開催する。今回から大府歯科医師会の伴委員に代わり、大野心み委員にご出席いただいている。なお、齋藤委員からは欠席の連絡をいただいている。

本日、机上にお配りした紙コップには、大府もちのき特別支援学校の生徒が描いたパラアート（障がいのある方が創作したアート）が描かれている。本市の取組に賛同いただいた住友重機械工業株式会社から寄附いただいたので紹介させていただく。それでは始めに、次第の1、荒井会長から挨拶をお願いします。

1 あいさつ

会 長： 本日も、議事に沿って活発な議論をお願いしたい。

2 議題

（1）「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランの素案について

事務局： 「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランの素案について【資料1-1、1-2】説明

- 会 長： がんの検診について、目標値との乖離がある。国の目標設定は一律 50%なのか。胃がんの検診率を国保で上げるのは困難だと思うし、胃がんの発症率自体が減っているので、費用対効果という面からしても、胃がん検診をどのように行っていくかは、国の方針を参考にしつつも、自治体ごとに考えていく必要があると思っている。
- 事 務 局： 国の目標は一律 50%から 60%へ上げられている。本市プランの目標値として、それぞれのがん種別ごとに目標設定することも検討したが、現状値に応じた目標設定しかできないため、計画策定時に置いた 50%に据え置く案としている。
- 会 長： 目標値を 50%に設定するのであれば具体的なプランが必要だと思うが、それが無い。今まで啓発、受診勧奨をやってきても変わらなかったということは効果がないということ。効果がないのであれば新しいプランを考えないと絶対に上がらない。例えば胃がんであれば方法を変えるなど。大腸がんの便潜血については、今は検診当日に潜血容器を渡し、別日に持ってきてもらう形でやっていると思うが、郵送では受け付けないのか。
- 事 務 局： 検査センターから郵送は断られている。ドックの方は、事前に空の容器を送って当日持ってきてもらうという形にしている。
- 会 長： 具体的に方法を変えない限りは絶対に変わらないと思う。また、費用対効果はどうなのか。特に胃がんについては、ピロリ菌の除菌が進んでいることもあり、胃がんは極めて少ないが、そういった状況でもまだ胃がん検診が必要なのかという議論はあるかと思うが。
- 事 務 局： まだ胃がん検診をやめるというような議論はしていない。国の指針に従っている。
- 会 長： 国はコンセンサスに至るまでのプロセスに非常に時間がかかる。自治体でしっかりと検討して十分なエビデンスがあるということであれば、大府市独自のアプローチがあってもいいと個人的には思っている。
- 委 員： 大府市のがん検診に関して、胃がん等は手挙げ方式で消化器の先生にお願いしている。今はピロリ菌も減ってきてはいるが、胃がん検診を外すというのは尚早かと思う。最近では肺がんが増えているのが実情で、開業医でも電子的なレントゲンをとる設備が整ってきた。撮ったレントゲンの電子データを、開業医に加え、半田市臨床検査センターにも送って二重で判断していただくという対策はしている。
- 会 長： 保健指導について、今後は AI なども組合せるような保健指導の ICT 化が進むと思われるが、市としてはどのように対応していく考えか。
- 事 務 局： 保健指導に対する ICT・IT の導入について、検討はしているが、実施、活用というところまでは至っていない。今は、半田市医師会健康管理センターへの委託が最も大きなウエートを占めており、人を介した保健指導を実施している。ICT・IT の導入については、今後も引き続き検討していかなければいけない内容かとは思っている。
- 会 長： 保健指導を受ける大府市民は半田市まで行かなければいけないのか。
- 事 務 局： 半田市医師会の職員が、保健センターや市役所に来て実施するので、大府市で受けられる。

会 長： 平均と比べて良い項目、悪い項目あるが、何か独自のことをやらない限りは決して改善しないと思うので、市において十分議論していただきたい。

事 務 局： このプランは大きな方向性を示すもの。先ほど指摘のあったがん検診受診率を50%へ上げるための具体的な施策については、市の実施計画や予算査定、議会承認などのフローを経なければいけない。今回頂戴しているご意見を踏まえ、すぐにプランに反映できる部分は反映し、時間がかかるものについても、都度ご議論いただきながら取組を進めていきたい。

会 長： 目標値と比べて乖離している値が多いにもかかわらず、具体的なプランが示されていない。具体的なプランがないまま、今までの計画をそのまま実行しているだけでは決して目標には近づかない。しっかりと議論してお金をかけないと、市民の健康増進にはつながらないので、もう少し具体的な計画案を盛り込んでいただきたい。

委 員： 53 ページの全世代型サロンについて、これは今ある「こども食堂」のようなところを全世代型サロンにしていくのか、新設を増やしていくのか。

事 務 局： どちらも含めて10か所以上にしていくという目標値。

会 長： 全世代型サロンでは食事提供はあるのか。

事 務 局： 全世代型サロンは食事を提供することが開設の条件となっている。これまで指標としていた常設サロンにおいては、一部でしか食事が提供されていなかったため、今回全世代型サロンに指標を変える。

会 長： 設置数も大事だが、実際の利用者あるいは延べ人数、利用者の年代等はどうなっているか。

事 務 局： 手持ちのデータがなく、すぐお答えできない。

事 務 局： サロンには、全世代型サロン、常設サロン、ふれあいサロンがあり、運営をすべて把握しているわけではないが、市や社協からも運営費を出している。今日はデータがないが、実態を把握しながら進めていきたい。

会 長： 次回までにはデータを出していただきたい。

委 員： 38 ページのがん検診受診率について、がんの発症率の年次推移データはあるか。発症率も低く、治療期間も短いということであれば、受診率は低くても良いと思う。目標値を上げている根拠性がこの部分だけちょっと抜けている気がする。

事 務 局： 発症率について、把握できるものかどうかも含め、検討させていただく。

会 長： 市だけで出すことは難しいかもしれないが、確かに大事な視点で、例えば発症率がどんどん減っているのに、低い検診率を上げるというのは難しい。逆に発症率が上がっていれば、市民に危機感を持って伝えることができる。

委 員： 歩行姿勢測定システムについて、一般市民が実施したいと思ったら、いつどこでできるのか。

事 務 局： 産業文化まつりや福祉健康フェアなど、市民が多く集まるイベントにおいてブースを設け、誰でも気軽に活用いただけるようにしている。また、健康経営を実践して

いる事業所から要望があれば、事業所へシステムを持ち込んで測定をしている。「0次予防」の観点で、より多くの方に気づきを持って、健康づくりに取り組んでいただくアイテムとして活用している。

委員： 市役所等に常設しているわけではないのか。

事務局： システムには3DカメラとPCの設置等が必要な上、測定結果について職員からアドバイスをさせていただきたいこともあり、常時設置はしていない。

委員： 健康で長く生きるためには、自分が今どのような状況にあるのか知ることが大事。検診等で悪い結果が出ると危機感を持って取り組むが、本来は病気になる前の段階で気付く機会が必要。例えば31ページの「週1回以上運動やスポーツに取り組んでいる人の割合」について、「全く取り組んでいない」「ほとんど取り組んでいない」を合わせると6割近くになる。一般市民は、運動をしないと健康になれないのは分かっているけれど、何か危機感を覚えるようなきっかけがないと健康づくりに取り組めない。勤めている会社で、50歳の人を対象に健康研修を実施したことがあり、目を瞑って片足で何秒立てるか、背中で手が繋げるか、などその場で実践することによって、きっかけを与えていた。市役所に行って気軽に体験できる測定等が増えると良い。

事務局： 市役所での測定で言えば、市役所1階の健康ロビーに体組成計を設置している。これまでは、靴下を脱いで乗るタイプの体組成計だったので、人の目が多いところでわざわざ靴下を脱ぎづらいというお声をいただいていた。今年度から靴を脱がずに乗れるタイプに変更したので、多くの市民に活用してもらえるよう周知していく。

委員： ぜひ広報等で周知してほしい。

会長： 気づきの機会は重要。我々のアプリでは、3Dカメラがなくても、スマホで歩行が分析できる。プリンターがあればレポート出すこともできるので、例えば公民館に常設し、結果を見て心配な方は病院に行ってくださいという仕組みを作ることもできる。市民が早期に気が付けるような環境整備をお願いしたい。

委員： プラザでも、開眼片足立ちや10m歩行測定、踏み台昇降など、アナログではあるが指導を実施している。常設で予約もいらないのでぜひ活用いただきたい。

委員： 私もプラザには行ったことがある。意識の高い人は行くが普通の人にはなかなかいかない。

委員： 有機米を給食に導入するのは良いことかと思うが、毎日ではないにしても費用が高くなるはず。高くなった分の費用は学校給食費から出ているのか。

事務局： 大府市では、米も含む物価高騰分の費用について、保育園、小・中学校、全て補正予算で市が負担している。

委員： どこの学校栄養士も、食材費の高騰によってやりくりし苦労をしている。補正予算等で対応いただけるのはとてもありがたい。

委員： 10ページの健康経営の取組について、健康経営優良法人の認定企業数を35社から70社へ増やすことを目標とされているが、これを実現するために今後どのよ

うな手を打つか、検討していただきたい。昨年度から、認定申請料に対する補助金を出していただいているが、1 企業 1 回限りの補助制度となっており、これだけでは施策として不足していると感じる。また、32 ページの「運動やスポーツをすることが嫌いな中学生の割合」について、部活動が減っていることと関連しているのか、という視点も必要では。

事務局： 健康経営の認定申請料補助について、事業所が認定のメリットを感じるためには、複数年の補助が必要だと担当としては感じている。補助制度については、財政部局と調整しながら進めていきたい。認定をとることによってどのようなメリットがあるかを市が PR していく必要があり、昨年度から認定をとった事業所を招くフォーラムを開催し、事業所の PR の場を創出している。また、中学生の運動・スポーツに対する意識と部活動との関係については、スポーツ推進の担当にも確認しながら進めていく。

会長： 教員の負担軽減等の理由から部活の維持が困難になりつつある。市としてどのように部活動を支援するかは重要なテーマ。

事務局： 地域のボランティアに協力いただくことによって、なるべく先生の負担を軽減しながら、こどもたちの運動機会の確保をしている。引き続き教育委員会やスポーツ担当課と協議しながら進めていく。

委員： 10 ページの健康経営優良法人の認定にかかる補助金というのはどのようなものか。

事務局： 健康経営優良法人の認定申請料 16,500 円に対し 10,000 円補助をしており、1 社につき 1 年限りの補助制度となっている。この認定は当初は申請料が無料だったが、令和 4 年に有料化した。有料化のタイミングで認定を取るのを辞めた事業所はいるが、2 年目から補助金がもらえないから認定を取るのを辞める、というような声は今のところ聞いたことはない。

委員： 32 ページの「運動やスポーツをすることが嫌いな中学生の割合」について、この質問は、日本の標準なのか。

事務局： スポーツテストに付随するアンケートで、全国で統一されているもの。運動が「好き」「やや好き」「やや嫌い」「嫌い」の選択肢から、プランの指標として「やや嫌い」「嫌い」を抜き出している。アンケートの項目として、「運動が嫌いですか」⇒「はい」or「いいえ」ではない。

委員： 教師の負担が大きいことは分かっているが、部活動を通してスポーツを推進するにあたり、指導協会等にお任せではなく、もう少し行政が関わって顔の見えるものがあると良いのでは。

委員： 41 ページに認知症の検査にかかる補助の記載があるが、全般的に認知症についての記載が少ない。

会長： 認知症予防に関して、大府市は全国に先駆けた取組を実施しており、長寿医療研

究Cとの連携により、必要な介入にも繋げられている。

会 長： プラン素案には、担当課ごとの取組が書いてあるが、目標値に近付かないものや、新たに目標値を設定したものについては、具体的な新しいプランは何なのか、本当に効果のある取組は何か、分けて書いていただくと我々もより理解しやすいので、検討してもらいたい。今日の意見をできる限り事務局のほうで取り入れていただき、次の2月の最終案につなげていただきたい。

(2) 第21回（令和7年度）健康都市連合日本支部総会・大会の開催について

事 務 局： 第21回（令和7年度）健康都市連合日本支部総会・大会の開催について【資料2】
説明

(3) 新型コロナウイルスワクチンについて

事 務 局： 新型コロナウイルスワクチンについて【資料3】 説明

会 長： 価格設定としては、良心的な値段かと思うがどうか。

事 務 局： 県内他自治体がどのように設定しているか参考にしながら設定した価格。

会 長： 市民はワクチンの種類を選べるのか。

事 務 局： 市内医療機関が主に扱うワクチンを市がヒアリングして、市公式ウェブサイトで公表している。ワクチン接種を希望される方はウェブサイトを確認した上で、希望の医療機関を選んで、自身で予約することができる。

委 員： 当院もワクチン接種をしている。一般的に新型コロナウイルスワクチンは15,000円あたりが相場だが、今回の大府市の接種は非常に良心的な値段。ご高齢の方や持病のある方にはなるべく進めているが、熱が出るのを嫌がられたり、オミクロンになって割と軽症で済む方が多くなったりで、説得するのもなかなか大変。

3 その他

委 員： 自分の身体のことを知る機会として、市で様々な取組をされていると伺ったが、あいち小児保健医療総合センターの中で、11/9（土）に県民公開講座「自分のカラダ大発見！」というイベントを実施する。小学校高学年とその保護者を対象として50組ほどを募集している。お医者さん体験やエコー体験、血圧や体組成測定等を実施するプログラムを用意している。保護者向けには、「こどもの体と心のおかしさに気づくポイント」という講演を聞いていただく。このような企画が1つのパッケージとして上手くいきそうな手応えがあれば、あいち小児Cとして各地へ出張してイベント開催をしたいと考えている。もしそうなった際には、大府市内でも実施の場を提供していただければありがたい。

委 員： 大府市スポーツ推進委員会では、こどもからお年寄りまで誰もが楽しめる「生涯スポーツ」を推進している。12/1（日）にメディアス体育館おおぶで、ニュースポーツフェスタを開催する。「スポーツをやるぞ！」ではなく、ちょっと遊びに行くよ

うな軽い気持ちでお越しいただきたい。

会 長： こどもから高齢者まで楽しめるスポーツとして、最近ではeスポーツも挙げられるが、そういったものもニュースポーツフェスタでは体験できるのか。

委 員： スポーツ推進委員はあくまで身体を動かす活動を支援するので、eスポーツは対象外だが、大府市文化スポーツ交流課ではeスポーツも推進している。

事 務 局： 石ヶ瀬児童老人福祉センターでは、常時eスポーツを楽しめるスペースを設けており、市民の方に利用いただいている。

事 務 局： 活発なご議論・ご意見を頂き御礼申し上げます。本日、主に計画について議論いただいたが、行政というのはやはり何を実施するか、ということが重要。本日頂いた意見の中で、すぐに計画に反映できる内容もあれば、市の実施計画や予算要求を伴うものもあるため、検討をさせていただく。

1点ご報告をさせていただく。市が加盟している健康都市連合という国際的な団体があり、隔年で大会が開催されている。今年9月末に韓国のソウルで開催された大会において、市の健康都市施策をまとめた論文が「グッドダイナミック賞」という賞を受賞した。「10か月児食べる機能健診」や「こどもの近視予防プロジェクト」など、この審議会の場でもご議論、ご説明させていただいている取組が評価され、前回よりランクの高い賞を受賞することができた。今後も健康都市おおぶを効果的にPRしていくので、ご協力よろしく願います。本日はありがとうございました。

事 務 局： 第3回の開催を2/4（火）に予定している。場所は本日と同じ、全員協議会室である。会議の日が近づいたら、改めてご案内させていただくので、よろしくお願い申し上げます。

以上で、令和6年度第2回「健康都市おおぶ」推進会議を終了する。

以上